

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

### .理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

### .安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

### .サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。

各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに を付け、適宜その内容を記入すること。

「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームさくら

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏名 勇 裕子

評価完了日

平成20年2月29日

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月7日

【評価実施概要】

事業所番号	3873900488		
法人名	吉田興産有限会社		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	北宇和郡鬼北町大字内深田1067番地2 (電話) 0895-45-0125		
管理者	勇 裕子		
評価機関名	特定非営利活動法人 JMACS		
所在地	松山市三番町六丁目5 - 1 9 扶桑ビル2階		
訪問調査日	平成20年3月11日	評価確定日	平成20年4月7日

【情報提供票より】 (平成20年1月31日事業所記入)

(1) 組織概要			
開設年月日	平成15年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	15人, 非常勤 4人, 常勤換算 15.4人
(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)			
家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	利用状況により異なる
敷 金	有( 円) (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		
(3) 利用者の概要 (平成20年1月31日現在)			
利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名
要介護3	4 名	要介護4	6 名
要介護5	4 名	要支援2	0 名
年齢	平均 81 歳	最低 70 歳	最高 93 歳
(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算			
指定 (あり)・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護		
指定 あり・(なし)	指定認知症対応型通所介護		
届出 (あり)・なし	短期利用共同生活介護		
加算 (あり)・なし	医療連携体制加算		

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>管理者は、相手の立場に立ち、利用者に接することの大切さを職員に話しておられる。事業所内でデイサービスを始められており、入浴や畑仕事を楽しみに通われる方がおられる。</p> <p>医療が必要となり、入院となった利用者の方であっても、利用者の状況やご家族のご事情に応じて洗濯物のお世話をされたり、他の利用者と一緒にお見舞いをされる等、ご本人を支えておられる。</p> <p>車椅子を利用している方の居室の入口には、蛍光色のテープで目印がなされ、車椅子マークのシールが貼られている。</p>
---

【質向上への取組状況】

<p><b>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</b></p> <p>・前回の評価結果を受けて、事業所の苦情窓口を明確にするため、重要事項説明書に第三者機関を記載された。</p>
<p><b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b></p> <p>・全職員で自己評価に取り組み、管理者がまとめられた。1年間の取り組みについて、改めて振り返る機会とされた。ご家族への報告の方法について、新たな取り組みも検討されていた。</p>
<p><b>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</b></p> <p>・地域の代表者や民生委員の方からも活発な意見が出され、民生委員の方の研修を受け入れられたり、今後、事業所の認知症ケアの取り組みを、地域に発表する機会等も作っていただいた。地域のネットワーク作りについてのアイデアやボランティアの紹介等、出席者は、事業所がさらによくなることを願い、活発にご意見や提案をしてくださっている。</p>
<p><b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</b></p> <p>・ご家族の来訪時やお手紙等でも、意見を出していただけるよう働きかけておられる。又、廊下に「遠慮なく意見を出してください」と掲示されている。意見箱に利用者から食べたいものについて意見が出され、即、反映された。又、ご家族の来訪の多い土曜・日曜に管理者が出勤され、ご家族とお話できる機会を大切にされている。</p>
<p><b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b></p> <p>・事業所の畑を手伝いに来てくださる近所の方もおられる。又、野菜をいただいたり、民生委員の方がボランティアにも来てくださる。さらに、小学生との交流もあり、児童や保護者の方達からお手紙やプレゼント等もいただいている。</p>

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
<b>1.理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価)		
			福祉の基本的理念を柱に、入居者、家族、事業所、職員が地域との関係を見直し、今1番大切に実行していきたいことを柔軟に取り入れられるようにしている。		
			(外部評価)		
			「地域と共に」と共用空間に掲示し、事業所では、地域と関係性を築いていくことを目指しておられる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価)		
			理念や目標を目につきやすいところへ掲示し、実践や反省ができるようにしている。		
			(外部評価)		
			事業所の介護理念や目標を、共用空間の職員の目につく場所に掲示し、職員が常に意識しながらケアに取り組めるようにされている。又、管理者は、職員に「相手の立場に立つ」ことを心がけるよう話されている。		
3		家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価)		
			家族には面会時、少しの時間でも話し合いを持つことを心掛け繰り返し伝えている。 地域の方には、交流会やイベントへの参加を通してホームでの取り組みや実践内容を伝えている。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) ホームの立地場所から隣近所が少し離れているので付き合いが十分とはいえないが、買い物など近所を必ず利用し、入居者の日々の生活を理解していただくようにしている。		
5	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の文化展示やお祭りには参加している。また、ホームに近い小学校から児童が色々な行事に参加してくれたり、父兄も参加してくださっている。運動会の見学に行ったりして交流に努めている。 (外部評価) 事業所の畑を手伝いに来てくださる近所の方もおられる。又、野菜をいただいたり、民生委員の方がボランティアにも来てくださる。さらに、小学生との交流もあり、児童や保護者の方達からお手紙やプレゼント等もいただいている。		さらに、事業所では今後、利用者が地域の中に出かけていくような機会を増やし、地域の方達と交流し、関係性をさらに深めていきたいと考えておられた。
6		事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営者、管理者は地域の交流会等に定期的に参加し、ホームでの実践を通して認知症ケアの啓発に努めている。また、運営者は認知症キャラバン・メイトとして認知症の普及に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 全職員で評価することでサービスの質の向上につながっている。外部評価の結果は全員で話し合い改善に向けてプラスに転換できるよう実践、努力している。 (外部評価) 全職員で自己評価に取り組み、管理者がまとめられた。1年間の取り組みについて、改めて振り返る機会とされた。ご家族への報告の方法について、新たな取り組みも検討されていた。		サービス評価のしくみをさらに活かし、事業所の質の向上につなげられるような事業所独自の取り組みが期待される。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	<p>運営推進会議を活かした取り組み                      運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)                      会議を重ねるごとに相互の意見交換が率直にでき、会議に出た改善案や取り組みにメンバーの積極的な参加があり、かつホームと地域とのパイプ役として活動し、ホーム、職員の質の向上につながっている。</p> <p>(外部評価)                      地域の代表者や民生委員の方からも活発な意見が出され、民生委員の方の研修を受け入れられたり、今後、事業所の認知症ケアの取り組みを、地域に発表する機会等も作っていただいた。地域のネットワーク作りについてのアイデアやボランティアの紹介等、出席者は、事業所がさらによくなることを願い、活発にご意見や提案をしてくださっている。</p>		
9	6	<p>市町村との連携                      事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)                      保健福祉課の研修、勉強会の案内がありこれに参加することで市町村に考え方を学んでいる。地域密着型以降後ホームの実態をよく知ってもらう関係作りが少しずつできている。</p> <p>(外部評価)                      運営推進会議時に、市の担当者から介護保険の説明をいただいたり、又、資料を準備してくださっている。又、包括支援センターの担当者から研修開催の情報等もいただいている。</p>		
10		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用                      管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>(自己評価)                      ホーム開設当初から勤務している職員は勉強会、会議を通して理解できている。実際に成年後見制度の利用もあり入居者家族への支援を行なった。</p>		<p>今後は新しい職員に勉強会、研修会への参加を促し理解を深めるようにしたい。</p>
11		<p>虐待の防止の徹底                      管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>(自己評価)                      研修や会議を通じ暴力だけが虐待ではないことを学び理解し、介護に対して馴れがないように注意を払っている。</p>		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約内容を十分に説明している。ホームの考え取り組み、極力避ける努力はするが起こりうるリスクについても説明する。また心身の重度化への対応や家族の要望を丁寧に話し合う。		
13		運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 施設長の面接を設けたり、管理者ができる限り話しを聴いている。日頃から感じとれることを全体で共有しその都度ミーティングを行い、不安を取り除き、利用者の意見を反映できるように努めている。		利用者にも推進会議に家族と共に参加してもらえるように努力している。
14	7	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) ” さくらだより ” にて近況をお知らせしたり、利用者の状態に応じてその都度電話、FAX、手紙で報告している。面会時にはアルバムをお見せしたり、受診ノートの記録の説明をし確認サインをいただいている。		
			(外部評価) 事業所便りでは、行事の様子や利用者の表情等も伝えておられる。又、ご本人の体調等については、電話やFAXでも随時、連絡をされている。		今後、毎月のご家族への書類送付時に、利用者ご本人の体調や日々の様子等について、細やかにお知らせすることを計画されていた。
15	8	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情等の受付窓口を掲示している。ご家族には訪問時いつでも言ってもらえるような雰囲気づくりを全職員で心がけ、ご家族の意見は出来る限り日常に反映させている。ホームへの意見等で言いにくいことはご意見箱を設置し自由に入れてもらえるようにしている。		
			(外部評価) ご家族の来訪時やお手紙等でも、意見を出していただけるよう働きかけておられる。又、廊下に「遠慮なく意見を出してください」と掲示されている。意見箱に利用者から食べたいものについて意見が出され、即、反映された。又、ご家族の来訪の多い土曜・日曜に管理者が出勤され、ご家族とお話できる機会を大切にされている。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) スタッフ会議での自由な意見交換それに応じての個別の面談での聞き取り、何より日頃のコミュニケーションを大切にしている。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者の日常生活を上手くサポートできるよう、職員の力量が最大限に発揮できるようにしている。また管理者ができる限りサポートできるように勤務体制を考えている。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 1F2F全体を日常の暮らしの場所と考え、いつでも利用者、職員が自由に行き来し相互に馴染みの関係を作ったり利用者の情報を共有している。 急な離職があっても利用者へのダメージは最小限になるように日々心掛けている。 (外部評価) 以前は職員の離職もあったが、現在は、離職も少ないようである。事業所の敷地内に職員の休憩室があり、職員は順番で休憩を取るようになっている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 短大、看護学校で福祉の講義をしている施設長より毎月全職員が方向性やアドバイスを受けている。研修の案内は掲示し受講には各自自由に参加ができるようにしている。ホーム外の会議に出席したものは体験や意見を発表してもらおう。また、順次出席できるようにシフトを組み体験や発表ができるようトレーニングしている。 (外部評価) 施設長が、定期的に事業所を訪れ、スーパーバイザーとして職員にアドバイスされている。成年後見制度等、職員がさらに知識を深めたいような項目について、勉強会を行なっておられる。		事業所では、今後の重度化や終末期を見据え、ケアについての知識や技術を深めていくことや、又、職員個々のスキルアップのためにも、職員の段階に応じた外部研修受講について、積極的に推進していきたいと考えておられた。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)		
			県連絡協議会の研修会に参加し他のGHとの交流を通じて体験や問題点の意見交換をする。また地域福祉に密着した交流会、勉強会への参加でホームの質の向上につなげている。		
			(外部評価)		
			利用者とともに夏祭りに参加されたり、他事業所を訪ねるようなこともある。		さらに、地域包括支援センターの協力を得て、3月から地域内の事業所が集う会を行なうことが予定されていた。さらなる事業所の質の向上のため、又、地域の認知症ケアの向上のためにも、地域のネットワークを構築していけるような積極的な取り組みが期待される。
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価)		
			日常のコミュニケーションの中から職員のストレスや悩みを汲み取れるように努め個人面談をしたり、すぐに気分転換できる場所を確保している。希望休についても確保できるようにし心身のストレスを軽減できるようにしている。		
22		向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価)		
			職員の努力はさることながら個性も把握し各自の能力にあった環境作りをしている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価)		
			相談があれば必ず本人との面談の機会をもち、心身の状態、思いを受け止め安心できる関係作りに努力している。		



自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24		初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) すぐに入所と決めつけるのではなく、本人、家族が何を望んでいるのか、今何が求められているのか、不安なことは何かをよく話し合っている。		
25		初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 話しをじっくりと聴き、何が今必要であるのか相談にのり、急ぐようであれば必要なサービスや他の事業所を紹介してできる限りの対応をしている。		
26	12	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人や家族が見学等事前にしてもらうようになっている。 急な場合は家族と一緒に食事を摂っていただいたり、宿泊できる環境も整えている。 (外部評価) 急な入居になった場合でも、職員は、利用者の様子を見ながらゆっくりと馴染めるようかかわっておられる。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 利用者は人生の大先輩であると職員がいつも意識付けをし、共有、言葉がけをしている。 自信につなげていけるように本人の力量に合わせた場面づくりに努力している。 (外部評価) 職員は、利用者から接し方を学ばれたり、おはぎ作りやお茶もみ等を習うようなこともある。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者の日常を細かく報告し、職員が家族と同じ思いで支援していることを伝えている。		
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人と家族の思いを受け止め最後のときまでより良い関係が構築できるように、外泊、外出、受診、また行事への案内をして一時でも同じ思いができるように心掛けている。		
30		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 本人の意志を尊重し馴染みの美容室へ送迎をしたり、車イス利用者にも子供のときから見慣れている風景など季節に応じ出かけて行けるように支援している。		
31		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者の日常をよく観察理解し、楽しく過ごす時間の場面をつくり、職員がうまく間に入り調整している。		
32		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 入院、退居された利用者ご家族の相談にのったり等、断続的な支援をしている。各職員がよく面会に行ったりして勇気づけている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p>					
<p><b>1.一人ひとりの把握</b></p>					
33	14	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>(自己評価) 日々の暮らしの中からの言動、行動、動作、表情から色々な思いを汲み取り、情報を職員で共有し、本人にとってどうすることが最良なのかを家族と共に考えて実行している。</p> <p>(外部評価) 職員が、利用者とかかわることで得た情報を、日々の申し送りや職員会議、日々の記録等で共有されている。</p>		
34		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>(自己評価) 自宅を訪問したりしてこれまでの生活や環境の把握に努め、馴染みの家具等をホームでの生活に取り入れたりしている。本人の話しをよく聴くこと、家族の訪問時に少しづつ情報を得ることで分からなかった情報を引き出しこれからのサービスに利用できるようにしている。</p>		
35		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>(自己評価) 性別、年齢等にとらわれず、利用者ひとりひとりを良く観察して、職員全体が情報を共有し本人の有する力をひとつでも失くさないように努めている。</p>		
<p><b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b></p>					
36	15	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 本人、家族の願いや思いを良く理解し職員全員が意見交換、アイデアをだしケアプラン作成に参加して、本人がうれしい、良かったと少しでも感じられる計画を作成している。</p> <p>(外部評価) 利用者ご本人が望んでいることを目標に掲げて、担当者を中心にして職員で話し合い、計画を作成されている。</p>		<p>さらに、今後、利用者個々の楽しみごとを支援できるよう、計画内容についても検討していきたいと考えておられた。</p>

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	16	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価)		
			介護計画の取り組み状況、実施の評価をしている。利用者の入・退院等の心身の急な変化にすぐに対応し、職員全体で情報を集め本人や家族の要望に応じて見直しを行っている。		
			(外部評価)		
			現在は、6ヶ月ごとに介護計画の見直しをされている。退院時等、状態に変化のあるような場合には随時の見直しをされている。		
38		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)		
			職員の気づき、ケアの実践で変化する利用者の状態を本人の行動や言葉を多く記入するように心掛け、その情報を全職員で共有しいつでも見直しができるようにしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価)		
			状況に応じて通院や送迎等必要な支援は出来る限り対応し安心を提供できるように努力している。2月からは入居されても馴染みの中で暮らしていけるようにホームの多機能性を強化した。		
			(外部評価)		
			事業所内でデイサービスを始められており、入浴や畑仕事を楽しみに通われる方がおられる。病院の受診の同行等もご家族の希望に応じ、柔軟に支援されている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		(自己評価) 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティア、近くにある小学校と交流会をしたり、行事のあるときには出かけていくなど徐々に馴染みの関係が築けている。		
41		(自己評価) 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	居宅支援事業所との交流を持ったり、自事業者で行っている訪問介護サービスとの交流にて本人にとってよりよいサービスの検討をしている。		
42		(自己評価) 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通じて地域包括支援センターの職員と話しやすくなり、地元の福祉に関する情報の交換ができたり、研修会等の誘いがあったりと協力関係ができている。		
43	18	(自己評価) かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している (外部評価)	ホームの協力医の他、入居前からのかかりつけ医の受診も本人の希望や体調に応じて家族と相談しながらしている。病院は固定せず複数の病院と関係を密にし、またソーシャルワーカーの方とも相談しあっている。受診ノートを個別に記録し家族に詳しく説明し納得してもらっている。 利用者のかかりつけ医や事業所でも複数の協力医があり、利用者の希望に応じておられる。又、いつでも相談できるようになっている。さらに、利用者の状態によって往診も行なってもらえるようになっている。		
44		(自己評価) 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医ではないが、地域の老人医療に熱心で本人や職員の話をよく聴いてくださり、家族の面会のもと診断や説明、治療をしてくださる医師がいる。また希望に応じて他の病院もすぐに紹介して下さる。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45		看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員がおり常に介護職員と連携をとり健康管理や病状、投薬の知識等を気軽に相談できる。看護ノートも作成して全職員で情報を共有している。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時、利用者の情報を家族の同意のもと医療機関に提供し、また家族が遠方に居る場合は特に、毎日見舞いに行き家族と病院とのパイプ役も努めている		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 重度化に伴いホームができる最大限のケアを日頃から説明し確認をとっている。 必要時には家族、医師、職員を交えて話し合いを行ない支援につなげている。 (外部評価) 事業所の看取りの指針について、ご家族に説明をされている。又、職員間でも、看取りについての思いを共有をされている。医療が必要となり入院となった方であっても、利用者の状況やご家族のご事情に応じて洗濯物のお世話をされたり、他の利用者と一緒にお見舞いをされる等、ご本人を支えておられる。		事業所では、今後の重度化や終末期を見据えて、ケアやご家族、医師との連携等の体制作りや、又、知識・技術をさらに深める取り組みをすすめていきたいと考えておられた。
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 本人、家族の思いを大切にし職員全体で最大限のケアをし、急変した場合には、すぐに対応してもらえるように病院と信頼関係を日頃から築いている。		
49		住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 新しい場所においても今の暮らしが継続できるように、家族の同意のもときめ細かな情報を提供し、職員が受け止めていた本人の思いを伝えるよう心掛けている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>					
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>					
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
50	20	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>(自己評価) 利用者は人生の大先輩であるということをいつも思い、全職員で誇りやプライバシーへの最大限の注意を払っている。スタッフ会議等でいつも意識の向上を図り、相互に気づき合い、意見がでるようにしている。</p>		
			<p>(外部評価)</p>		
<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>			<p>(自己評価) 利用者と職員との馴染みの関係を深くし、重度化しても体全部で表していることを見逃さず、たとえひとつでも自己決定ができるようにチームケアに努めている。</p>		<p>時に、職員の利用者に対する言葉かけや態度、又、環境面についても配慮を必要とするような場面が見受けられた。この機会に利用者個々のプライバシーの確保の徹底について、すべての職員で話し合われてみてほしい。</p>
52	21	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>(自己評価) 介護度があがっている利用者が多くなり、決まり事の中ではすでに生活ができにくくなっており、ひとりひとりの体調に気を配りながら本人の気持ちを一番大切に、今できる事から支援している。(ドライブや買い物)</p>		
			<p>(外部評価) ご本人の起床時間に合わせて、食事をされている利用者の様子がうかがえた。ご本人が携帯電話を持たれ、お好きな時にご家族と連絡を取られる方もおられる。</p>		

自己評価及び外部評価票

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又 は取組みを期 待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 本人の個性を理解するとともに、こだわりや更衣のしやすさに配慮し、衣類のお直し等にも職員が工夫し協力している。 本人の希望により美容室にいつでも行けるようにし、美容室側にもホーム、利用者のことを理解していただいている。		
54	22	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 好みを聴いたり、野菜を畑と一緒に取りに行ったりして何ができるのか楽しみを見つけるようにしている。ひとりで食事ができる工夫をしたり(きざみ等)、場面において本人の力が発揮できるようにしている。職員も利用者と同じテーブルにつき楽しく食事できるように心掛けている。 (外部評価) 天候や体調に応じて、庭の東屋で食事をされることもある。テーブル拭きをされる方もおられる。昼食時、演歌や童謡等の音楽が流れていた。		さらに、利用者個々の状態に合わせ食事を楽しめるよう、取り組み等、工夫を重ねていかれることが期待される。
55		本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 本人が好きな物をできるだけ毎日楽しめるようにしている。特にコーヒーなどでほっとした時間を作っている。甘い物など好物を職員と共に買い物に行ったり、好きな時間を楽しんでもらえるようお部屋で管理できるように支援している。		
56		気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 尿意のない利用者が多くなってきてはいるが、気持ちのよい排泄ができるように申し送り時に排泄状況を報告し、チェック表を使い時間を見計らってはトイレにて排泄ができるように支援している。トイレの場所が分からない利用者の排泄サインを全職員が把握して失敗を少なくし自信につなげるように心掛けている。		



自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	23	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価)		
			利用者の希望は必ず確認して入っていただいている。自立の方は大きな浴槽でゆっくりと、車イスの方は安全に入浴ができるように支援している。体調が悪く入浴できなかった方には、必要に応じ足浴や清拭で次回の入浴へつなげている。		
			(外部評価)		
			お湯の温度等も、利用者個々のお好みに合わせておられる。		
58		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価)		
			ひとりひとりの生活リズム、体調を考慮しつつでもゆっくり休息できるように支援している。就寝にむけて温かく好きな飲み物を飲みながら時代劇のビデオを楽しんだり、寝付けない時は安心してできるようにしばらく添い寝をしたりしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価)		
			四季折々の生活の場面で知恵や経験を発揮していただいたり、日々の家事、食事の手伝い、行事等でのあいさつやお礼の言葉をお願いし、ひとりひとりが主役になることでその人らしい場面づくりをしている。		
			(外部評価)		
			入居後にカラオケや料理に興味を持たれたような方もおられる。病院受診の帰りに、デザートを食べる帰られることもある。		
60		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)		
			家族の理解を得て、小額でもいつでも使えるように全員マイバックを用意している。定期受診等外出時には必ず持参し、おやつやちょっとした物がすぐに買い物できるように工夫している。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	25	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価)		
			日常生活の流れにとらわれず、天気の良い日は利用者の体調や希望に添って戸外で昼食を摂ったり、散歩をしたり、季節を感じたりすることで気分転換を図っている。車イスの利用者でも介護車を利用し買い物に行ったり、馴染みの場所へドライブに出かけている。		
			(外部評価)		
			お散歩をされたり建物の周りを歩行練習される方もおられる。ご家族とお出かけをされる方もある。		事業所では、利用者個々の体調や状態も見ながら、外出の機会を増やし、季節を楽しんでいただきたいと考えておられた。
62		普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価)		
			テレビのニュースをみて「行ってみたい」とか「家へ帰りたい」と利用者の思いが強い場合は実現を目指し、家族へ相談または協力を得たり、職員間でよく話し合える限りの支援につなげている。		
63		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	(自己評価)		
			利用者の希望を支援している。荷物や手紙が届いたときなど必ず本人が手紙や電話で連絡がとれるように支援している。頻繁に家族や知人にいつでも電話をしたい方には家族の理解のもと携帯電話を購入し使用方法など助言、支援をしている。		
64		家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価)		
			時間の制限などせず、いつでも自由に訪問していただいている。居室で話したり、ゆったりと何時間でも一緒に過ごしていただける部屋や、遠方から来ていただいた家族にも宿泊できるスペースを用意している。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 目に見える拘束ばかりでなく精神面においても理解をし、服薬など医師と相談し職員間でも十分な話し合いをしてケアに取り組んでいる。		
66	26	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜の防犯以外には鍵をかけない。 利用者ひとりひとりの状況を観察し、職員の見守りを強化してさりげない態度や声掛けで日々の暮らしを支援している。 (外部評価) 現在は、玄関前は利用者の安全のためにフェンスが設置されており、普段は施錠されている。		利用者の自由な暮らしと安全を守るための取り組みについて、この機会にいろいろな方達と話し合いをされてみてはどうだろうか。
67		利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 職員間の声掛けや目配せによって、さりげなく利用者を見守っている。 夜間は、全員の利用者が見通せる場所に、休息できる長椅子等を配置して24時間安全確保ができるように努めている。		
68		注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の日々の状態を職員間で申し送り等通じ共有し、全てが危険なものといつも意識付けしながら、利用者の力の発揮が失うことのないような柔軟な対応と厳重な管理をしている。		
69		事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ヒヤリハットや事故報告書を書くことで職員の反省と改善に努め、これを全職員が共有し、よく話し合い、サービスの向上につなげている。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 消防署の協力で応急手当の講習会を持ったり、看護師による指導を職員が受け、これらを基礎とし活かしている。		
71	27	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防署の協力を得たり、緊急マニュアル連絡網を作成し、目につくところへ掲示しいつも全職員が意識付けをし、訓練を実施している。 (外部評価) 車椅子を利用している方の居室の入口には、蛍光色のテープで目印がなされ、車椅子マークのシールが貼られている。年2回の訓練時には、消防署の協力を得て、夜間を想定した避難訓練を実施された。		実際の訓練で、2階の利用者の避難には課題を感じられている。今後も自主的な訓練を重ね、すべての利用者が安全を確保できるよう、取り組みをすすめていられることが期待される。
72		リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 利用者の“今何ができるのか”の力の発揮を職員が把握し、そのために起こりうるリスクを考えその状況の変化に応じて細かく説明をし、写真・ビデオでの笑顔等を見ていただき相互に理解、納得できるように話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 日々の生活の中で利用者を良く観察し、職員間で情報の共有をし、体調や顔色の変化を見逃さないようにし、バイタルチェックを行いすぐに管理者へ報告、職員間で対応している。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
74		服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者各自のファイルを作成し、処方箋にて目的や副作用を理解し、服薬時・後の様子を注意深く観察し、状態を看護師、医師に報告している。		
75		便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄は重要なことと深く認識し、毎日の乳製品の摂取や、食事の工夫、適切な運動、水分補給の工夫を取り入れている。それでも困難な場合には状態に合わせて自然な形で排便できるように服薬するようにしている。		
76		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 口腔ケアの重要性を職員ひとりひとりが理解し、肺炎予防の点からも利用者の力に応じて歯磨きを支援している。プライバシーを尊重し、必ずひとりひとり洗面所で行っている。		
77	28	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 摂取状況を毎日チェック記録に残し、職員で情報を共有し、対応がすぐにできるようにしている。自分で自由に食べる楽しみを感じていただけるように、好みや習慣を観察し、食事の提供等に工夫し、食が少しでも多くなる支援をしている。		
			(外部評価) 利用者の飲み物の熱さや好み等に配慮して、水分摂取をすすめておられる。体重の増減等、医師にも相談しながら食事作りに気を付けておられる。		さらに、利用者の食事に関してご家族に相談をされたり、時に、栄養面等メニューの内容をチェックしてもらおうような機会も設けられてはどうか。
78		感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	(自己評価) 感染症について看護師に知識や情報を求め全職員が学習し、早期発見、早期対応を心掛けている。インフルエンザ予防接種は利用者と共に職員も受けている。手洗い、汚物の取り扱いには慎重に行っている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79		<p>食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>まな板は熱湯をかけ乾燥、布巾は毎晩漂白している。定期的に冷蔵庫の中をチェックし古いものは処分している。また、季節的に食中毒が発生しやすい時期は火を通す料理を中心にしている。</p>		
<p><b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b></p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>					
80		<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ゆとりのある駐車場を用意し、車がすぐに入れるようにしたり、玄関先にプランターを置いたり、すぐには休んでお茶が楽しめるゆとりのスペースをつくっている。</p>		
81	29	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>玄関から昔懐かしい物を配置したり、四季に応じてお茶づくりやおはぎづくりを取り入れたり、雛飾り、七夕飾り、クリスマスツリーと季節感を力の発揮につなげる工夫をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関には、雛人形や昔なつかしい品々を飾っておられた。</p>		<p>さらに、音楽等の音や居室・トイレ等の扉の開閉のことについて、利用者の立場から家庭的で心地よい環境となっているかということについて、この機会に話し合ってみてはどうだろうか。</p>
82		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>好みに応じてカラオケをしたり、天気の良い日には日向ぼっこができる東屋、玄関先や玄関ホールで2~3人がホッとお茶など楽しめる工夫をしている。また、トイレは車イスでもひとりでも入れ、ゆっくりと排泄ができるようにスペースをとっている。</p>		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族の写真を飾ったり、暖簾を掛けてプライバシーを守ったりしている。たんすや衣類の他に馴染みの品物(仏壇など)を配置し、いつもの生活に近づけられるように、また家族の了解のもと、自宅に馴染みの品物を取りに行ったりしている。 (外部評価) ご家族の写真や仏壇を持ち込んでおられる方もあった。洋服をハンガーにかけておられる。		居室で長時間過ごされるような方等についても、居室が心地よい空間となっているかということについて、話し合ってみる機会とされてはどうか。職員でアイデアを出し合い、ご本人やご家族とも相談しながら、工夫を重ねていかれることが期待される。
84		換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 利用者の状態を見ながらこまめに室温調整をし、十分に換気を行っている。トイレなど臭いが出る場所はいつも換気をし清潔を心掛けている。冬など暖房をOFFにし、窓越しに日光浴を行うなど、自然の環境も満喫している。感染症予防の面から湿度に留意し加湿器も購入した。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者の状態に合わせ階段の手すり、廊下の手すり、浴室の手すり等を上手に生かしている。これは安全対策と同時にリハビリにも活用している。		
86		わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 混乱や失敗を職員一同でよく話し合い、分析し、持てる力を取り戻せるように環境づくりをしている。さりげない見守りや誘導が必要であり心掛けている。		
87		建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 庭に植木を植えたり、畑を利用者と共に活用したり、車イス利用者は東屋を利用し、空気や自然を感じていただけるようにしている。また、ホームの周りにリハビリができるように手すりも設けている。		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ①ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者の生活を良く理解し、日々の状況に応じ、本人と職員でコミュニケーションを取りながら支援している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ①毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	15:00のおやつするときなど共にテーブルにつき、コーヒーを飲んだりおしゃべりをしたり(5分でも)している。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日常の決まり事や流れにとらわれず、本人の体調に合わせ食事をしたり、休息したりとひとりひとりを支援している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の日常生活の中でのサインを全職員が把握し相談しながら支援している。重度化の中においても、笑顔の表情が1日1度はできるよう心掛けている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	意思表示のできる方が少なくなってきたが、本人の訴えにはできる限り対応し、介護車を活用し出かけている。訴えができない方でも四季を感じていただけるようにドライブに出かけている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日常の暮らしを全職員が把握し情報を共有し、必要に応じ看護師、医師と連携をとり、安心して生活できるように努めている。(何でも相談できる医師がいる。)
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入浴など不安が伴う支援は利用者の意思を優先している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (自己評価) ①ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	入所時に家族の思いや願いをよくお聴きし、日常生活や変化を面会時等に詳しく説明できるように対応している。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	地域の理解も少しづつ得られるようになり、また運営者の活動等のおかげで季節の野菜を届けてくださったり、ホームの畑を手伝ってくださったり、いつも気にかけてくださる方が増えている。



項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (自己評価) ② 1 大いに増えている ② 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない	ホームの理解をしないと、ホームを民生委員の研修の場所に利用して下さったり、交流会などに参加して下さったりしている。ホームをボランティアグループの発表の場に利用して下さったりと応援者が増えている。
98	職員は、生き生きと働いている (自己評価) ① 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	重度化に伴い支援の難しさを共有しているので、スタッフ会議や日々のカンファレンスにおいて意見がよくできるようになり、各自のモチベーションがあがっている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う (自己評価) ② 1 ほぼ全ての利用者が ② 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者中心の支援を心掛けているが、日常の業務に追われていたり、重度化に伴いコミュニケーションがとりにくくなっているために、不安にさせているときがあるように思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う (自己評価) ② 1 ほぼ全ての家族等が ② 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	はっきりと意見が出せれる家族の方ばかりではないので、随時連携がとれるように努力していきたい。

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

利用者職員がホームを特別な所と捉えず、日常の暮らしの延長といつも意識している。  
 利用者の意思を尊重し、家族の思いや願いを理解し支援している。  
 重度化している利用者の方にも1日1回笑顔が引き出せる、また主役の時間を見つけあげたと全職員で努力している。  
 開設当初からの職員も数名おり、入居者の状態をよく把握しており、すぐに変化に気づき対応ができています。  
 (数日前にも脳出血の利用者の異変にすぐに対応ができ、10日程度の入院のみで麻痺もなく退院でき、再びホームでの生活を取り戻すことができた。医療連携においても、心身に相談できる医師や看護師がいることは利用者や職員には安心できることです。)  
 今後は益々、地域との関係を深め、行き来を充実させ、職員はホーム以外の高齢者の方達の心配りもできるように努めたいと願っている。